

インターバンクの声（2014 年 11 月 27 日）

ドル円相場は、25日のニューヨーク市場の朝方に118円を割り込んでから118円台に戻りきれない時間が長引いている。25日ニューヨーク市場が開いて間もない時間帯に発表された7-9月期実質 GDP の結果は市場予想を上回る内容だったが、その後に発表された11月の消費者信頼感指数の発表以降、どうも冴えない米経済指標の発表が目立つようになってきた。消費者信頼感については、現状指数と期待指数がともに悪化、雇用関連でも職に就くのが難しいとする数字が増しており、昨夜も10月の耐久財受注のコア資本財受注、新規失業保険申請件数、個人消費・支出、11月のシカゴ PMI やミシガン大学消費者信頼感指数が軒並み事前予想を下回った。10月の新築住宅販売件数くらいは強い数字になると思われたが、こちら予想を下回った。この一連の指標結果で、よく117円台の半ばを割れた程度の下落で済んだものだとも思うが、感謝祭休日を前にして無理にポジションを広げたくないと感じた市場参加者が多かったのが幸いだったのかも知れない。米10年債利回りが2.20%台から2.30%台辺りで推移するようでは、米金利の上昇期待を背景にしたドル買い意欲が削がれるのも仕方がない。ドル買い相場に戻るためには感謝祭からクリスマスにかけての年末商戦の盛り上がりが必要だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。